

運動会の親子リレーで親として参加し、転倒した時、皆さんはどのような対応をしますか？
久しぶりの運動に身体がついていけないのか運動会での保護者の転倒はよくあります。小学校の時、私の父親も転倒しています。元陸上部でスピードに乗った父親の派手なこけ方に客席は大盛り上がりで大爆笑。しかし、父親はすぐに立ち上がり、すでに最下位が確定しているにもかかわらず、全力で走り始めました。笑いに包まれていた客席は静まり、ゴールとともに

⑳ 大人が示す手本



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

に大きな拍手に変わりました。転倒直後は、「恥ずかしい」という思いがありました。たった数秒で会場の空気を換え、ゴールした父親が誇らしかった記憶があります。



話が変わって、私は、思い入れが強すぎて入団してしまうほど、

失敗を「恥ずかしい」と思わない子に

吉本新喜劇が大好きです。新喜劇の魅力は、笑いとの感動です。舞台上で島木譲二さんが暴れまわり、チャーリー浜さんや桑原和男さんなどが登場のたびにボケる。常に笑いがあり、收拾がつかないように見えて、ストーリーはしっかりと進行し、最後の最後は泣かせてくれます。

その泣かせるシーンでセリフ間違いをすることがあります。しかし、そのようなシーンでは、よほどでない限りミスはいじることはありません。「笑わせる」のが仕事、失敗で笑いを取ってもそれは「笑われている」だけだ。若手芸人時代にこのような指導をいただいたことがあります。自分たちが作り上げる笑いには貪欲で、ことごとくまで砕けますが、真剣な場面は真剣にやる。このメリハリが、当時の新喜劇の魅力でした。

へ…。「何とかしたい」と考えるクラスメイトと一緒に大声を出しましたが、その歌声がむなしく響く形となり、会場は笑いに包まれるおかしな空気がになりました。私はいまだにその笑いの意味が分かりません。笑った人間にとっては忘れられた記憶かもしれませんが、悔しさでいまだに思い出す一生忘れられない場面です。

は教育の世界で多々あります。国語の授業で真面目に大きな声で発表した人間を笑う。英語の授業で外国人の様に正しい英語の発音をした人間を笑う。その他の授業でも積極的に参加し、発言している人間を笑う。緊張している人間のミスを笑う。夢を語る人間を笑う…。「一生懸命にやっている人間を笑うな!」。私が小学校教員の時は絶対に許しませんでした。

真剣に取り組む人間が少数派になり、真剣になれない多数派がそれを笑う。このようなケース



失敗して恥ずかしいと思わない子どもたちを育てるためにも、失敗しても常に前を見て、真剣に行動できる大人の姿を示していきたいです。